

ブドウ「あづましずく」の発芽促進処理による収穫期の前進化

福島県農業総合センター 果樹研究所

1 部門名

果樹 - ブドウ - 生育調節

2 担当者

佐久間宣昭

3 要旨

ブドウ「あづましずく」は、8月上中旬に収穫される極早生の大粒品種であるが、毎年、盆需要期に安定して収穫できる栽培技術が求められている。そこで、発芽促進処理により収穫期を前進化する方法について検討した。

- (1) 短梢栽培のブドウ「あづましずく」を用いて、自発休眠期(12月)にシアナミド液剤を処理し(図1)、また、3月下旬から4月中旬まで芽座部分に芽袋被覆を行うことで生育を促進し(図2)、収穫期を無処理区に比べて7日早めることができた。
- (2) 発芽促進処理により生育を早めた場合、晩霜害の危険性が高まるので、防霜対策には万全を期す必要がある。
- (3) シアナミド液剤の使用の際には、使用上の注意事項を守り使用する。



図1 自発休眠期に、シアナミド液剤を結果母枝基部に散布(2008年12月11日)
使用薬剤: ヒットα13(散布濃度20倍、展着剤加用)



図2 樹液流動後から展葉2~3枚まで芽袋被覆(2009年3月23日~4月20日)
使用資材: 0.1mm厚ポリ袋(300mm×150mm)

処理	発芽	展葉	開花始期	開花盛期	着色開始期	収穫始
シアナミド液剤 + 芽袋	4/ 8	4/12	5/23	5/31	7/ 7	8/ 5
シアナミド液剤	4/12	4/18	5/29	6/ 4	7/13	8/10
無処理	4/14	4/21	5/30	6/ 5	7/15	8/12

表1 シアナミド液剤と芽袋被覆による生育促進効果

4 主な参考文献・資料

- (1) ぶどう「あづましずく」新短梢栽培の手引き
- (2) ぶどう「あづましずく」栽培の手引き